

ART VILLAGE

V おっ、市場に春らしい野菜や魚が
神戸新鮮市場は、5つの商店街があつまり、約500店舗が軒を連ねる、西日本最大級の商店街。生鮮食品はもちろん、衣料品、結納品までなんでも揃う。
 並びはじめたな～。心地よい陽気に
 誘われて、豆大福でも頬張って、
湊川市場にある、50年続く和菓子屋・甘幸堂では、名物の豆大福ほか、焼き立てのみたらし団子も人気。(荒田町1丁目15-6)
 買いものの帰りにちょっとKAVC
 寄ってみーひん？ この春は、
C 全編が宮城の言葉で綴られてる
 小さな家族をめぐる朗読劇や、
東日本大震災で被害を受けた宮城の海辺のまちを舞台にした朗読劇『ファミリーツリー』。4月4、5日に開催予定でしたが、12月に延期に。詳しくは中面「EVENT SCHEDULE」にて。
 モダニズム建築への愛に溢れた映画
モダニズム建築の宝庫・インディアナ州コロンバスを舞台にした映画『コロンバス』。建築を巧みな構図で切り取った、美しいシーンに注目！ 詳しくは中面「神戸みちくさ天国」にて。
 などなど、なんかほっこりできる
 作品のラインナップが待ってるで～。
 今年度も、引き続きご最員に！

ART VILLAGE VOICE — CONTENTS

KAVC CONVERSATION 番外編

「照明」が生み出す、表現の新たな見え方 対談：小出篤（株式会社PACwest照明技術者）×橋本実弥（神戸アートビレッジセンター 施設運営担当）

STORY KAVCスタッフと、ときどき保安のおっちゃん物語 | STAFF's VOICE KAVCからのお知らせ

KAVC REPORT : ART LEAP 2019 潘逸舟『いらっしやいませようこそ』 誌上ギャラリーツアー

KAVC これ、見た？ REVIEW レビュアー：伊藤まゆみ | 新開地新名物 vol.9 八喜の「開放的なお座敷」

EVENT SCHEDULE 2020.04-06 | 神戸みちくさ天国

www.kavc.or.jp

「照明」が生み出す、 表現の新たな見え方

神戸アートビレージセンター(以下、KAVC)は、1996年の開館以来、美術や演劇・ダンス、映画、地域を軸にした自主事業のほかに、広く市民の方に施設を貸し出す貸館事業にも力を注いできました。今回の対談では、KAVCに常駐し、施設管理に携わるふたりが登場。2020年1月末～3月にかけて、約20年ぶりにホール・シアターの照明設備をリニューアルした今、普段はあまり表に出ることのない貸館事業の取り組みを、照明が担う役割に注目しながら紐解きます。



小出篤 (こいで あつし)
KAVCの施設管理・運営を委託する株式会社PAC westに所属。20年以上にわたり、関西の劇場・ホールで照明技術者を担当。独自に培った技術と知識をもとに、現場を執り仕切る。

橋本実弥 (はしもと みや)
2017年より施設運営担当としてKAVCに在籍。学生時代は演劇部に所属し、役者としても活動。利用者やスタッフの間に立ち、施設利用に関する相談・調整役を担う。

さまざまな要望に向き合う現場の力

橋本: KAVCは、公共の文化施設として、市民の方々に施設の貸し出しを行っています。利用内容には、たとえば地元の方たちが集まるハワイアンダンスの発表会、高校生バンドによるライブ、関西で活動する劇団やダンスカンパニーの公演などがあり、大・小、プロ・アマ、ジャンルもさまざまです。私は施設運営担当として、まずは施設の利用を希望される方と話し、企画内容やスケジュール、必要機材を何う窓口の役割を担っています。そのなかで、今回テーマとしてお話しする「照明」については、「よくわからない」とおっしゃる方も少なくありません。舞台をつくる経験のない方には、照明さんの仕事って、馴染みがなく、あまりイメージしにくいだろうと思います。

小出: そうですね。でも、なかには凝った照明プランを考える熟練の方もいらっしゃいますね(笑)。

橋本: たしかに。貸館予約が決まった後には、私たちKAVCの施設運営担当と小出さん、利用者の方で打ち合わせをし、照明に関するオーダーを伺いますが、そのときに「これは小出さんの腕がなるな!」と思う企画もあります(笑)。と同時に、舞台上での表現を担う要素のひとつである照明を、いろんな方に身近に生かしていただきたいという想いもある。今回は、その点も踏まえながらお話ができればと思っています。照明技術者として、

いつもKAVCの施設管理に伴走してくださっている小出さんですが、打ち合わせ後は、どのように進行していくのでしょうか?

小出: 利用する団体のスタッフのなかにオペレーターがいる場合は、機器の管理・操作について簡単なレクチャーを行い、本番はお任せします。そうでない場合は、弊社スタッフが照明プランの作成から設置・操作までをお引き受けするのですが、ここでは丁寧なやりとりが重要になります。要望を読み解き、会場のどのエリアに灯体を設置すればいいのか、どんな色が必要かななどを検討して、照明の仕込み図に落とし込んでいきます。その後は設営をしてリハーサルへ。利用者の方と一緒に演出を確認し、本番を迎えます。そして、最後は撤収という流れです。

橋本: 本当に、小屋入り前から終了まで、すべての過程に関わる仕事ですね。照明を引き受けるとき、プランはどのように考えるのでしょうか。

小出: 企画内容とスケジュールを照らし合わせると、「大体こういうセッティングかな」というのは把握できるんです。そのなかで、どんな要望にも対応できるように準備しておく。リハがはじまってから「やっぱりこういう色は出せますか?」と聞かれることもよくあります。

橋本: でも、リハを行うのは機材を吊り込んだ後になるので、もう一度設置し直すのは時間的に難しいですね。

小出: はい。だから事前に、あらゆるケースを想定して臨むようにしています。とは言え、茶色やグレーなど、照明で表せない色を出してほしいというオーダーをいただいたときは、お手上げでした(笑)。光の色は色彩と原理が異なり、再現できない色もあるんです。しかし、利用者の方がどんな表現をしたいのか、やりとりを重ねていくなかで見てくることも多い。細かな調整ができるのは現場ならではの良さでもありますし、納得のいく演出になるよう、私も力を尽くします。

橋本: 利用者の方が、無事に本番を終えて「よかったです!」と笑顔でお帰りになる姿を見ると、嬉しくなりますよね。

小出: うんうん。そういう声が聞けるからこそやめられない、達成感のある瞬間です。

橋本: さまざまな要望に柔軟に応えていくためには、型にはまらない想像力が求められると思います。いつも心がけていることはあるのでしょうか?

小出: 常に意識しているのは、自分ならどうやるかということですね。ほかの技術者の方が照明デザインを担当される現場に立ち会うこともあります。この人はこういうふうに使うんや」というんな点に着目して、自分だったらどの色を使おうか、どんな仕込みにしようかと思い描いてみる。そうすると、自分のなかにアイデアの引き出しが増えていくんです。そういった積み重ねは生きていくと思いますね。

パフォーマンスの可能性を広げる 照明技術

橋本: つかぬことを伺いますが、小出さんはどういった経緯で照明のお仕事に就いたのでしょうか?

小出: 実は、大学時代にバンドをやっていたときに、文化祭で照明を担当したんです。とは言っても、ステージは道端の一角。スイッチもないので、コンセントを抜き差ししてチカチカ明滅させたぐらいです(笑)。ひょんなことがきっかけで、現在の仕事に至りました。

橋本: そうでしたか。入社後、KAVC以外の施設も担当されていたりしたんですかね。

小出: 入社して2、3年は関西の劇場を、そのあとは9年間、大阪の市民会館で1,300人規模のホールを担当しましたね。特に市民会館での経験は、大きな学びになりました。パレエやライブ、能や狂言など、オールジャンルの照明を手がけることができたので、「何が来ても大丈夫!」と自信がついたし、自分なりのノウハウも確立できたように思います。橋本さんは、もともと舞台に関する活動をされていたんですか?

橋本: 私は大学時代に演劇部で役者をはじめました。学生劇団だと、スタッフワークもみんなでするので、照明もそのなかで、「灯体はこうやって吊るんや」と口伝えて教わって。知識があるとは甚だ言いがたいのですが、機材の吊り込みなどの

作業もそこで何度か経験しました。

小出: 役者さんだったとは! 舞台上上がる立場から、照明の効果をどう感じるか、お聞きしてみたいですね。

橋本: やっぱり、照明のあるなしで見え方は全然違うと思います。なんの変哲もない人間も、舞台上立って光を当てられると、何かをしはじめるような、意思を持ったひとりの存在として際立ってくる。公演を観に行くと役者が何割増しに見えるというのは、照明さんの力です(笑)。

小出: 恐れ多いお言葉です。でも、照明によって、舞台表現は本当に豊かになりますよね。

橋本: そうなんです! だから、初心者の方や、難しそうだからと敬遠される方にも、劇場を使うからこそ照明は遊べるんだということを感じてもらいたいです。最近では、演劇も劇場でない場所での公演が増えていますし、トークイベントや講演会も会議室でできてしまいます。でも、劇場は照明を使ってまだ見ぬ表現を模索できる場。「こんなふうにできるんだ!」と実感できれば、もっとパフォーマンスの可能性は広がるはずだと思うんですね。

「こんなことがしたい!」を支える 環境づくり

小出: KAVCホールの強みは、フルフラットに使用でき、照明を吊るパイプがグリッド状に天井の全面に行き渡っていることですね。他館だと、客席側の照明は固定され、新たに吊る場所は舞台上に横一列で走る数本のバトンに限られることが多いんです。でもKAVCは、ホールの空間であればほぼどこでも舞台にでき、設置したい場所に好きな角度で照明を吊り込める。いろんな表現に対応できる点は、最大のメリットだと思いますね。

橋本: 今回は照明設備が約20年ぶりに一新。これまでとは、どのように変わのでしょうか?

小出: ハロゲンスポットライトの入れ替えに加え、新たにLEDスポットライトを導入します。照明の色は光の3原色である赤・緑・青を混ぜて表すのですが、従来はカラーフィルターをセットした機器で、色の数だけ準備しなければなりません。しかしLEDは、操作卓で色を細かく調整できるので、機器が1つで済み、仕込みの時間も短縮されます。

橋本: 一方で、舞台背景の白幕に色を付けるホリゾントライトは、引き続きハロゲンを使用するんですね。私のなかで、ホリゾントは色で舞台を引き立てる機器というイメージがあったので、色調をコントロールできるLEDに変更しなかったのは意外でした。

小出: たしかにLEDのホリゾントも便利なのですが、ちょっと鮮やかすぎるんです。情景をつくるためのものであるはずが、逆に目立ってしまふ。橋本: その鮮やかさが仇になってしまふわけですね。ちなみに打ち合わせでは、利用者の方で「こういうふうにしたい」と動画をを見せてくださることもあります。そのなかでよく登場するものにムービングライトがありますが、導入していませんよね。今後加わることはあるのでしょうか?

小出: ムービングは、コンサートなどでよく使う機器なんです。KAVCでは演劇の公演が多いので、実はあまり出番がないというのが導入しない理由のひとつです。また、専用の操作卓が必要になり、取り扱いも複雑なので、使用できる人が限られてしまう。使う際は、照明とムービングそれぞれにオペレーターを動員するのが一般的です。

橋本: なるほど。施設の利用内容と、照明機器の特性を踏まえて、設備が整えられていることがわ

かります。でも、利用者の方が見学に来られるときに、それらの機材が本領を発揮した状態をお見せできないのが悔しいですよ〜!

小出: 基本の照明機材を設置した常仕込みがないからね(笑)。大きな劇場だといくつかのパターンが常に組まれているのですが、KAVCはホール全体が舞台になるという特徴もあり、そもそもパターンをつくること自体が難しい。本番の仕込みが済んだりハーサルでしか、実際の光を見ていただくことができないんですよ。

橋本: だからこそ利用者の方には、照明設備を生かしてどんなことができるのか、どんなふうになるのかを、より具体的に伝えていけるようにしたいなと思います。

小出: たとえば、舞台写真を撮りためて、「ホリゾントを使うとこういうふうに見えますよ」と説明できる資料を準備するのはいいかもしれません。

橋本: いいですね! ジャンルごとに想定される仕込みの写真を撮ったり、公演を映像で記録したりするのもよさそうです。

小出: あと、利用者のなかには、ご自身で仕込みをしてみたいと手を挙げられる方もいらっしゃいますよね。他館では照明の吊り込みや操作のほとんどを館の技術スタッフが担当することが多いんです。でもKAVCでは、ある程度の範囲内であれば、実際に手がけていただくことができる。そういう意味でも、いろんな挑戦を応援する貴重な劇場なんじゃないかなと思いますね。

橋本: そうですね。利用者の方の挑戦が楽しく安全に実現できるように、想いや意図を伺い、スタッフと密に連携を取りながら、企画をサポートしていきたいです。

収録日: 2020年2月15日(土) KAVCにて

お知らせ

照明設備のリニューアルを経て、
ホールとシアターの貸出・使用が再開!



演劇・ダンス・音楽の公演などに利用できるホールスペース。舞台、照明、音響などの設備も充実し、可動式客席・仮設舞台を用いて多様な用途に対応可能。

KAVCシアター



35mmの映写機やビデオプロジェクターが設置された、映映上映に適したシアタースペース。演劇・ダンス・音楽の公演などにも利用できる。

※ご利用前に見字と打ち合わせが必要です。

舞台用語集

~照明編~

施設を利用するときには、
現場で使えるかもしれない用語を
紹介!

あくていんぐふくあ(音読) 名 出演者が舞台上演技をするスペース。大道具や背景などを除いた範囲で、このエリアに照明が定まるようになっている。おべりたー(後) 名 照明プランに基づき、公館のハーサルや本番で操作卓を扱う人。「オペ」と略称。とも。かみて(名) 客席から見た舞台の右側から「ふり」名 照明の灯りに色を付けるためのフィルムで、色が豊富、機材本体に取り付け使用する。フイルターを使用しない場合は「生色」の光などという。かつて「ランプ」が素材になっていた名残り。「セ」こと呼ばれることも。「解説」フイルターには色を表す番号がつけられています。何番が好きと通って、通った番号が解し出されます。橋本: きゃくでん(名) 会場の客席側の天井に設置されている照明。ぐりつど(音読) 名 天井に格子状に組まれた舞臺機材の吊る物機構。「解説」KAVCホールのグリッドは電動

で昇降します。照明だけでなく、音響や美術などほかの吊り物と共用なので、各担当間の連携が大切(小出)

こいでさん(音読) 名 KAVCの施設管理・運営を担う照明技術者。「解説」小出さんは、さまざまなオペレーターを「わかりました」の一言で汲み取ってしまふす(小出)迷ったとき、いつも相談に乗ってくれる頼れる存在です(橋本)

こころす(音読) 動 機器・道具などを固定すること。「解説」何も知らずに聞くと、きまよとするかも知れませんが、現場ではロープをグリッドに絞しておいて、といった使い方をします(小出)

しごみ(音読) 名 上演に必要な機材や、種目や幕に間に合うように準備することと照明を設置するための舞台図面は仕込み図という。

ぞうい(音読) 名 客席から見た舞台の左側スタッフを追加で動員すること。「増員スタッフ」と呼ばれる。とも。

つりこみ(音読) 名 道具や幕、照明機

器などを所定の位置に吊ること。とあたい(音読) 名 舞台照明機器を指す。使う場所、用途に応じて多様な種類がある。「解説」ライブなどで強い光やビームを出すパースライト、照射面を四角形などに切り取るカッタースポットライトなどがあります。おなみに、用語の読みは「語がベース」「どうたい」「はなく」「おたい」と表記します。(小出)

ばさん(音読) 名 照明機器や道具を天井に吊り込んだの昇降パイプ。ばらす(音読) 動 設置した機材セットや舞台装置を解体すること。

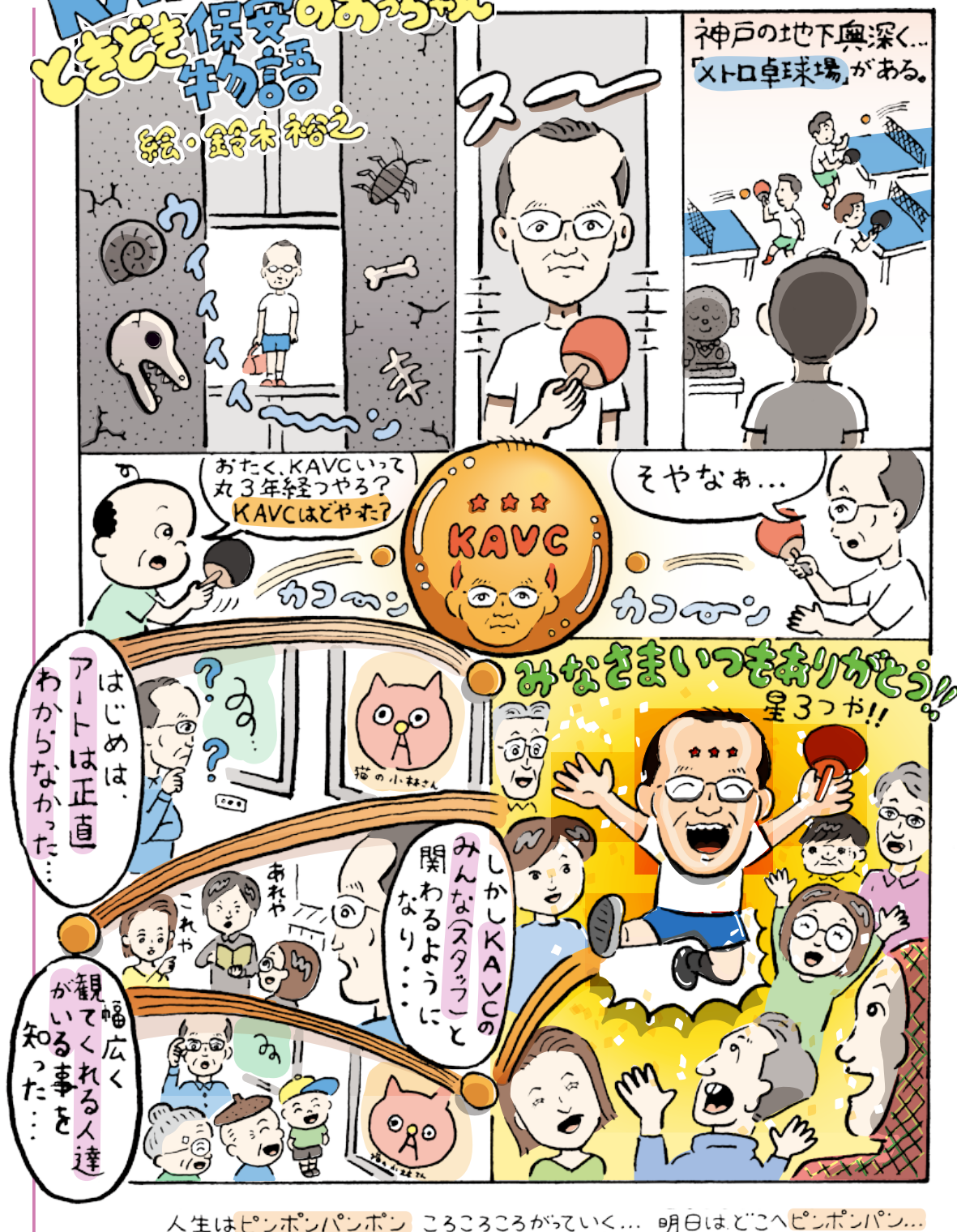
びんすば(音読) 名 ビン・スポットライトの略称。客席方から出演者の動きに合わせてフロアに光を当てることができる照明機器で、操作する人員が必要。「解説」スポットライトをつけたら、「一口に言っても、出演者の動きを光で追いたいのか、場所を固定して一本の光で照らしたいのか、要望はさまざま。オペレーターを具体的に把握することも、施設運営担当の仕事のひとつ(橋本)

ほり(音読) 名 ホリゾント幕の略称。舞台の最後部にある色の大きな幕で、照明によっていろんな色に染まり、舞台効果をも高める。プロジェクターで映像を投影するスクリーンとしても使う。

おーびんぐらいと(音読) 名 遠隔操作により灯体動かし、照射方向や色などをコントロールできる照明機器。

KAVCスタッフと、 ときどき保安のおっちゃん ときどき牛物語

絵・鈴木裕之



人生はピンポンパンポン ころころころがっていく... 明日はどこへピンポンパン...

KAVCスタッフと、

ときどき保安のおっちゃん物語とは……

本館の隠れた主人公・保安のおっちゃん3人衆のかたわらで、日々業務に励むKAVCスタッフ。彼らが見つめる新開地とKAVCの日常から、さまざまなエピソードを紹介していきます。

作・画 ^{すずき ひろゆき} 鈴木裕之さん

本誌を機会に新開地デビューを果たした大阪出身・在住のイラストレーター。雑誌やCDジャケット、広告ほか、全国さまざまなイベントでの似顔絵屋、ワークショップなど活動中！

KAVCのいま

2 017年4月、運営体制が大きく変わってからこの春で3年が経つ。大半のスタッフが入れ替わった当初、業務の一つひとつを見直しながらルールを築いていったのが昨日の日のこと。私は神戸市役所と兵庫区役所での勤務を経てKAVCへやってきた。仕事で数回訪れた程度で、正直なところ印象は非常に薄かったが、これまで接点を持つことがなかった「芸術作品に携わる人たち」、つまりKAVCのスタッフに出会えたことで、印象は大きく変わった。もう少し若い頃に出会っていたら、自分の芸術文化に対する見方や価値観がもっと違っていたかもしれない。KAVCは、毎年約11万人が施設を利用し、述べ約18万人が足を運んでくださっている。来館者アンケートでは、施設が古いなどのお声もいただき、ご不便をおかけする場面も多々あるが、80%を超える方々から高評価をいただいている。しかし、広く兵庫区や神戸市から見てみれば、まだまだKAVCの認知度は高いとは言えないかもしれない。今後は認知度を上げ、足を運んでいただける方の満足度の向上を目指すとともに、優秀なスタッフを育成し輩出することを念頭に取り組んでいきたい。



執筆者

柳谷茂昭 [館長代理]

毎日、散歩がてら新開地周辺の飲食店巡りを楽しんでいます。だけど、年々脂っこいものが苦手になってきていて悲しい…

おことわり

新型コロナウイルスの感染拡大に伴う
対応について

新型コロナウイルス感染症対策の今後の動向によって、臨時休館の他、自主事業の中止もしくは延期が想定されます。最新状況につきましては決定次第、HPや各種SNS等でご案内いたします。最新情報の掲載ページはこちらから →



STAFF's VOICE

KAVCスタッフが日々活動するなかで、興味を持ったものごとをざっくりと紹介していきます。オススメイベントの詳しい情報などはWebサイトにて！

羽仁真理子 [地域事業担当]

VOICE 01

4月に上映される、NTLive『リーマン・トリロジー』は、世界的な投資家「リーマン一家」の栄光と衰退を題材にした作品。資本主義の戦場といわれるニューヨーク・ウォール街で、「強欲は善」という空気の中、移民のリーマン家が三代にわたり戦い、市場の代表的プレイヤーの一角を担ったのちリーマンショックが起きるまでの苛烈な戦いを描く一作。演劇という立体的な手法で表現するのだから、その熱量の大きさを感じずにはいられないでしょう。今から期待が高まるばかりです。

山本聡之
[庶務・経理担当]

4月からワークショップの新シリーズをはじめます！「つくること」を身近に楽しく感じてもらいたい！という想いから生まれた、その名も「ひらめきのたね」。講師に絵本作家やイラストレーターなど、現在活躍中の作家陣をお迎えし、年齢を問わず楽しめる多彩な内容でお送りします。なんと、新開地土曜マルシェと同時開催。「絵本が好きだから」「作家さんに会いたいから」どんな参加理由でもOK！年齢や経験も関係なく、お気軽にご参加ください。難しいことは考えなくて大丈夫！お待ちしております！

VOICE 02

ひらめきの
たね

神戸アートビレージセンター
www.kavc.or.jp

指定管理者：公益財団法人 神戸市民文化振興財団
〒652-0811 神戸市兵庫区新開地5-3-14
TEL = 078-512-5500 FAX = 078-512-5356
開館時間=10:00-22:00 休館日=毎週火曜日
(火曜が祝日の場合は翌日)・年末年始



アクセス
・神戸高速「新開地駅」8番出口より徒歩約5分
・JR「神戸駅」ビエラ神戸口より徒歩約10分
・神戸市営地下鉄「湊川公園駅」東改札口より徒歩約15分